

<『ここすき！』第4期生が始まりました>

新年を迎え、ここすき！も、中央児童館と本町学童保育所で4期生がスタートしました。以前にここすき！に通っていたお母さんから勧められて申し込んだ、という方も何人かいらっしゃいます。「ここすき！は楽しいところだよ」という評判が、参加者の口コミで少しずつ広がっているようで、うれしいです。

1月から3月という寒い時期の開催なので、通うのが大変なのでは？と心配しましたが、「寒い時期で、遊び場所に悩んでいたのが、週2回通える場所ができて良かったです」という声も聞かれ、安心しました。



4期生の子どもたちは、同じ1歳児でも、2期生、3期生の子たちと比べ、2歳の誕生日を迎えている子が多いため、全体的に余裕が感じられます。一人ずつ名前を呼ばれると、ほとんどの子が「はい」と返事をしたり、手をあげて、「ここにいるよ」とアピールすることができます。お母さんと一緒に踊るダンスや、『だるまさんが』の絵本に合わせて身体を動かすのも、ニコニコ笑顔で皆楽しそうです。一本橋、坂道、滑り台をサーキットのように回るのも、大人がやって見せた後、「やりたい人！？」と聞くと、「ハイ」と手をあげ、一人でスムーズに回ったり、友だちのやるのを見ていることもでき、感心させられます。



お母さんが集まって話をしている間、子どもたちは自由に遊ぶのですが、お母さんからスムーズに離れて、すぐに好きなおもちゃで遊びだす子がほとんどです。中には、お母さんのそばにいるのが安心と、離れがたい子もありますが、大人や、友だちに誘われて、少しずつ遊びだします。

今まで同年代の友だちがいなかったという子も、ここすき！に来て遊んでいるうち、友だちへの関心がずいぶん出てきました。毎回の活動や遊びを繰り返すうち、「友だちがやってるから、わたしもやってみよう」「そのおもちゃ、ほくもつかいたい」「だめ、今つかってるの」といった様々な思いが出てきます。でも、まだ言葉が十分に出ないため、大人が仲介しながら、少しずつ気持ちのやり取りをしています。また、友だちの顔を覚え、他の場所で会っても、“あっ”とわかる姿に驚いたとの感想がありました。ままごとのカップにお茶を注いでから、「どうぞ」と友だちに渡したり、カップを前に差し出し、友だちと「カンパイ」をするなど、微笑ましいやり取りが見られます。



新聞紙をビリビリとちぎる遊びもします。細かくちぎった新聞紙をビニール袋に集めて入れ、ビニールプールまで持っていき、袋を逆さにしてパッパッと入れるなど、大人のやるのをよく見ていて、同じように真似します。プールの中と外で、ワーツ、キャーツと歓声をあげながら、ちぎった紙をひらひらとまき、とても楽しそうです。お母さんからは、「家では、なかなかここまでではやらせられないよねえ」との声が聞かれ、ここすき！ならではのダイナミックな遊びを親子ともに笑顔で楽しんでいます。



お母さん同士も顔見知りになり、意見交換をする中で、お互いに影響を受けています。子育ての悩みを打ち明け、「みんな、同じように悩んでいるんだ」と、ホッとしたり、少しだけ子どもから目を離して、他のお母さんたちとのおしゃべりできるひと時が、リラックスできる貴重な時間となっているようです。

子どもにとっても、お母さんにとっても、ここすき！が「また、行きたい！」と思える場所となり、一人ひとりの子が成長し、友だちと楽しく関わっていけるよう、これからの活動を工夫していきたいと考えています。